第１回木材調達チェックブック検討作成委員会　議事録（概要）

日　時：2010 年 8 月 3 日（火）13 時 30 分から 16 時 30 分まで
場　所：ウッドマイルズ研究会事務局会議室
出席者：（検討委員）藤原敬氏（社）／全国木材組合連合会常務理事、白石秀知氏／（特非）京都・森と住まい百年の会事務局長、中桐秀晴氏／山梨県森林環境部県有林課森林利用担当、松下修／松下生活研究所代表、榎本崇秀／（株）山長商店常務取締役、三澤文子／（有）MOK-MSD 代表、山村いづみ／東京大学大学院
（事務局）滝口泰弘／ウッドマイルズ研究会事務局長（記録）
議　事：(1) 委員長選出
(2) 木材調達チェックブック検討作成委員会について　（別添資料 1）
(3) 木材調達チェックブックの目的について　（別添資料 2）
(4) 木材調達チェックブックの内容について　（別添資料 3）
(5) 関係者アンケートについて　（別添資料 4）
(6) その他報告、次回検討会日程

(1)委員長選出
・委員長選任について、事務局より委員長に藤原敬氏を選出し、全会一致で決定した。

(2)木材調達チェックブック検討作成委員会について
・事務局より委員会の経緯と主旨、検討事項、進め方を説明し（別添資料 1 参照）、了承された。

(3)木材調達チェックブックの目的（対象者、目的、使い方）について
・事務局より木材調達チェックブックの目的について、先月開催された総会、フォーラムの意見も踏まえ、事務局案を説明（別添資料 2 参照）。
・指標の範囲として品質は不可欠である。対象は建築物以外の紙製品等までの議論は、当委員会では困難である。紙製品等は付録程度で掲載するのはどうか。建築だけでは物足りない。

・品質は、どのあたりまでを扱うかが課題である。また、何をもって品質とするのかにも寄る。
・ＪＡＳだけではなく「同等でも可」という基準が、現実的に地域材には必要である。
・事務局案でも段階的な評価になっているので、どのように誘導するか、最終到達点がＪＡＳなのかどうか、現状を踏まえ望ましい方向を示せばよいのでは。実務者を対象にする場合は品質はやはり必要。山の資源利用のメインはやはり建築なので、そこを主に考えていけばよいのでは。
・ＪＡＳ同等品の場合、この同等の定義があいまいで、どこまでならよいのか、今業界でも議論になっている。
・地域材の品質基準は自治体で様々であるため、各都道府県の状況（品質含めている、含めていない）が分かる一覧が作れるといい。
・何らかの公的担保（ＪＡＳ、第三者認証等）に誘導していく、という方向が現実的だと思うし、地域材の底上げにつながると思う。
・全て公的担保が必要となると、自分で裏山の木を使って家を建てるなどの取組ができなくなってしまう。近山で頑張っている人達も評価される仕組みが欲しい。
・品質には「樹種」もあると思う。どういうところにどういう材を使うのが良いか、という情報があってもよい。
・樹種の公的な基準は、現状では耐久性区分のＤ１、Ｄ２樹種しか無いと思う。
・無垢材だが割れるなど、「品質」にはメリットとデメリットがあるので、供給者と使用者個別に対応するしかないと思う。
・それは既に地域材の作り手はやっている。
・品質は見た目ではない、ということで地域材をずっとやってきたし、今は結構それが普及していると思う。
・屋久島の活動に関わっているが、屋久島では島外の木材利用がほとんど。理由は、価格、プレカット、品揃えだが、最大の理由は島外の木材が安いというのが地元の工務店の意見。住まい手は工務店に任せているので分からない。工務店が勧めるからいいだろうと思ってやっている。一般消費者が地元の木材を調達することを検討できるような基準があると違ってくると思う。
・一般の人にまで品質基準の理解を求めることは難しいと思う。良い木材に関心を持つことができれば、そのままそれを使って下さい、と要求すると思う。
・一般に対する啓発は、品質ではなく環境性能であると思う。品質は実務者が対応すること、という住み分けでよいのでは。
・何か問題が起こったときに「品質」が問われる。設計者にとっては、その場合拠り所となる「品質」がやはり欲しい。
・作り手の品質は価格基準、住まい手の品質は使い勝手、使いやすさである。
・一般市民と設計者では、理解のレベルがかなり違うが、一般市民への発信は絶対必要なので、別冊でもよいから欲しい。
・別冊でなくても、根本的な部分は、プロ、一般、双方に理解できるものになると思う。
・市民にとって、木材は木材。これは環境、これは品質、と区別して理解はできないので、一体

的な表現が必要だと思う。

・木材調達チェックブックの対象者は、事務局案の通り、自治体、つくり手、一般市民の３者とし、内容には環境指標だけではなく、品質も出来る限り含めたもので検討を進めることとする。

(3) 木材調達チェックブックの内容（構成・評価項目・成果品の形態）について

・事務局より木材調達チェックブックの内容について、評価に使用する既往の指標や評価方法も含め、事務局案を説明（別添資料３参照）。

・自治体の地域材認証も流通の範疇だが、流通の評価項目に入らないか。

・自治体はこれを使う対象者として捉えているので、評価指標案には入れていない。

・フェアウッドの基準については、地域工務店が自分達で評点を調べていくのが、実務上難しいのと思うので、ロシア合板の場合、米松の場合等、例示をしておく必要がある。

・流通の項目の部分で、CoC 認証、合法木材、流通把握度という３つの指標が使われているので、産地の項目ように３つに分けるのか、１本でいくのか、検討が必要である。

・森林の状態について捉えているのが「産地」の項目で、森林認証は、FM 認証と CoC 認証で、「産地」と「流通」の２つの項目にまたがっている。同様に合法木材の指標も「産地」と「流通」にまたがるものである。

・個々の評価レベルの設定は今後も議論するとして、５つのモノサシで計る、という事務局案は分かりやすいので、大枠としては良いと思う。

・個別の評価レベルの設定で言うと、例えば、森林認証は必ず取らなければいけない、というのはどうかと思う。森林認証を取っていないが頑張っている地域の人達もたくさんいる。

・認証を取得しなくても、誰もが、各認証と同等の内容をチェックできるようにするのはどうか。

・公的認証の取得自体は、本質的にはいらないものでもある。

・品質についても、ＪＡＳ基準でなくても良い、という人達が大勢いる。公的認証によらず、各自が必要なチェックができ、ちゃんと根拠を持って説明できるものであればよいと思う。

・公的認証ありきではなく、認証に使われているチェック手法を使用することを通じて、同等の評価レベルが確保できるようにするのが良い。既往の認証の中身を知らない設計者もたくさんいる。

・顔見えの地域の人達も使える基準にすべきである。

・乾燥エネルギーの問題も大きい。

・バイオマス乾燥の各種データについては、熊崎氏にアドバイスを受けるとよい。

・輸入材の乾燥は、重油を使っているのもあると思う。

・自社は分かるが、海外のボイラーについても、参考にできる値の提示が必要だと思う。

・地域材の人達の実情は、100％重油乾燥が多いと思う。

・小規模の製材所では、木屑ボイラーのシステムが合わない。大分のように組み合わせ（重油によるドライングセット＋天然乾燥）などのシステムがいい。

・乾燥方法にスポットがあたると、時間をかければ環境に良いものできる（天然乾燥等）が話題になるのでいい。

・「山と対話する」といった、価値観を問うような評価項目も欲しい。
・チェックブックの総括の部分で、この辺りの価値観を述べるのはどうか。
・チェックブックを本当に使ってもらうためには、作成のプロセス段階で、色々な人に関わってもらうことが必要。どういう人が作ったかということも重要になる。
・今年度は、この委員メンバーにて暫定版としてまとめ、次年度以降の普及段階で、色々な人に関わってもらうという進め方が良いと思う。
・暫定版公開の際に、意見を伺う人のリストをつくってはどうか？。
・このチェックブックの評価は誰がするのか？。
・ウッドマイルズ研究会が有料で認証するという仕組みも作っておいらたいいと思う。また、事務局案のように、コミュニケーションとして「ぬり絵」があってもいいが、総合評価としては、Ａ～Ｃのようなトータルなものが欲しい。
・総合評価の弊害もある。ある１つの項目のみで、その他は考慮しなくても総合得点が良くなるなど。
・住まい手にとっての木材の価値は、あくまでも調達後なので、調達後の指標も加えてほしい。使い続けるメリットが無いと長く使われないと思う。
・この指標は個別住宅に対するメリットを生むものではなく、もっと大きな社会的メリットを生むものだと思う。
・今回の事務局案の「超寿命（炭素固定）」の項目に、既に調達後のことが加味されている。５つの評価項目の最後にこの「長寿命」を持ってきて、ここで調達後の指標として表現するのはどうか。
・成果品については、ホームページ等に不慣れな世代等のことも考え、書籍化をした方が普及すると思う。
・各指標の評価レベルや詳細については、今後詰めていくこととし、事務局案の５つの指標で総合的に評価するという方向で検討を進める。

(4) 関係者アンケートについて
・事務局より、木材の環境指標及び品質に関するアンケートを実施し、チェックブック検討作成の参考にする旨、アンケート（案）と共提案があり、了承された（別添資料 4 参照）。

(5) その他報告、次回検討会日程
・事務局より、木材調達チェックブックやアンケート結果等も踏まえ、意見交換する場としての、ウッドマイルズ京都セミナー概要案（9/27 予定）が提案され、早急に外部講師の調整を行うことにて、了承された。
・第２回木材調達チェックブック検討作成委員会予定：10 月 8 日（金）13：30～16：30

以上